

志賀中Today

学校教育目標：心ひらき つながり 高め合える生徒の育成

志賀中学校だより
令和3年 3月24日発行
進級号 生徒数：605名
文責：校長 竹橋 清隆

志賀中学校 生徒の行動目標

あいさつ いのち のびのび しんせつ がッ



進級おめでとうございます

3学期の始業式でも話をしましたが、3学期は本当にあっという間に月日が過ぎましたね。先日卒業式を終え、173名の先輩たちはそれぞれの道に巣立ちました。1、2年生のみなさんも本日修了式を終え、4月からは2年生、3年生です。進級おめでとうございます。

明日から春休みになりますが、春休みは年度が替わる**節目**の時期になります。この**節目**を大切にしてください。竹には高く伸びるために、節があります。節が大きければ大きいほど、その後強く高く伸びる可能性が出てきます。人も同様に、周りの環境が変わる**節目**の時期に、自分自身の意識を変えることで、この一年で作った大きな節に蓄えられている力を、エネルギーとして活用し高く成長できるはずです。2年生は4月から最高学年に、1年生は先輩となる中堅学年に進級します。「〇〇をがんばろう」「□□をやり遂げよう」「◇◇な一年にしよう」など目標をもって新学期を迎えられるよう、意欲をみなぎらせる春休みにしていきましょう。みなさんは自分が思う以上に「やればできる可能性」を秘めています。また、みなさん一人ひとりが発揮する力は、学校をさらに伸ばす原動力にもなります。4月から、個人の目標実現とともに、さらに、「みんなが愛し、みんなから愛され、誰もが誇れる志賀中」にしていきましょう。

まだまだ、周りの状況が一変するとは考えにくいのが現実です。しかしながら、皆さんの令和3年度は一度きりしかありません。取り返しがきかず、戻ることができない、**時・時間を大切に**して行ってください。「**今やらなければならないこと、今しかできないこと、今だからこそやれること**」を選択して取り組んでほしいと思います。また、時間は誰にでも平等に与えられていますが、減ることはあっても増やすことはできません。人にとって、一番貴重な財産です。自分の意志で、自分の時間を使うとともに、決して、人の時間を奪うことのないように、日頃の生活でも意識していきましょう。その意識が、人とのかかわりの中での「**感謝する心**」「**お互いを思いやる心**」につながるはずです。



＝保護者・ご家族の皆様へ＝

お子さまの進級おめでとうございます。この1年間の成長ぶりを頼もしく感じておられることと存じます。今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、お子様、保護者の方々にも、不安、心配をかけながらの一年であったことと思います。しかしながら、そんな中にもかかわらず、なんとか今年度を終えることができました。これもひとえに、本校教育活動の推進にご理解・ご協力いただいたおかげと、厚くお礼申し上げます。明日から、年度の**節目**である、春休みを迎えます。「子どもが変わる」という面では、大切な時期だといえます。新3年は目指す進路が少しずつ具体的なものになってくる、新2年は「〇〇な先輩になりたい」と目標をもつなど、新しい学年への期待と希望で、生徒は目をみはる成長を遂げることが多いものです。

しかし、時としてその逆もあります。3年生が卒業し大きな存在がなくなると、ややもすると横着な態度・投げやりな気持ちで新学期に突入し、後々、立て直しに苦勞するケースを幾度となく見てきました。大きくなった身体とともに、心もバランスよく成長されるよう、ご家庭でも家族一緒に活動する場やお子さまの思いや願いに耳を傾ける機会を設定するなどして、状況の把握に努めていただきますとともに、温かい家族関係の中で、見守り・励まし、お支えいただきたいと思ひます。また、何か気になることなどがありましたら、休み中でも学校までご連絡いただければと思ひます。



ご卒業おめでとうございます

3月15日(月)、卒業生、卒業生の保護者、教職員と在校生代表1名で暖かな春の訪れを感じる日差しの中、令和2年度第74回大津市立志賀中学校卒業証書授与式を、無事挙行することができました。173名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

卒業式は学校が最も大切にしている行事であり、大きな節目の行事でもあります。今年も在校生の皆さんは、残念ながら式に参加して門出を祝うことはできませんでしたが、先輩達との学校生活を振り返り、よき伝統、先輩達の頑張りを引き継ぎ、さらに上を目指して突き進みましょう。



答 辞(抜粋)

卒業生代表

林 大介
森田 真奈



(略) 三年前の春、ぶかぶかの制服に身を包んだ僕たちは、大きな期待と少しの不安を胸に抱き、この志賀中学校に足を踏み入れました。クラス発表の名簿を見ると、知らない人たちの名前がたくさんあり、とてもドキドキしたのを覚えています。新しい学級、初めての部活動、そこでの多くの出会いが僕たちの不安をかき消してくれました。

(略) 一番のイベントである志賀中祭。(略)“笑顔満祭”というテーマのもと、それぞれのクラスがアイデアを出し合い、協力して作ったオリジナルTシャツは、私たちだけの特別な一枚となりました。

その色とりどりのTシャツを身にまとい行なった体育祭。学年だけでの開催で競技種目も減り、少し物足りないように感じましたが、その分一つ一つの競技に、より気持ちを込めることができました。

どんな形であれ、みんなで一生懸命取り組み、喜び、悔しがるのが、クラスや学年の絆を深めるのだと気づくことができました。

三年生での一番のイベントである修学旅行。日帰りとはなりませんが、受験勉強から解放され、思い切りはしゃぎ、楽しむことができました。移動のバスの時間も先生たちが用意してくださった映像を見て、これまでの僕たちの成長を感じることができ、とても懐かしく、温かい気持ちになれました。

いろいろな制限の中、諦めなければいけないことも多くありましたが、そんな中でも、みんなと知恵を出し合い、工夫しながら前向きに取り組めたことは良い経験です。心残りが無いと言えば嘘になりますが、それも含めて、思い出深い一年となりました。何よりも、当たり前だと思っていた日常のありがたさや尊さを感じ、今置かれた環境の中で、自分が何をすべきか、みんなで何ができるかを考えるという、これからの長い人生で大切なことを学ぶことができたと思います。

残念ながら、在校生のみなさんと一緒に卒業式を迎えることはできませんでしたが、今よりもっと素敵な志賀中学校を築いていってほしいことを願っています。新型コロナウイルスの影響はまだまだ続きそうですが、何事も簡単に諦めるのではなく、仲間と共にたくさんの思い出を作っていってください。

(略) この中学校生活で得た、かけがえのない宝物。それは…三年生のみんなです！ みんなと過ごしたこの三年間は、思い出でいっぱいです。時にはぶつかり合うこともありましたが、辛いこともうれしいことも、みんなで見分ち合い、そして学び合い、高め合ってきました。

その中で学んだことは、『人は一人では生きていけない』ということです。振り返れば、僕たちは仲間の存在にたくさん救われてきました。そして、目には見えない多くの人の愛情に支えられてきました。

今日、僕たちは卒業し、それぞれの道を歩んでいきます。志賀中学校で得た多くの財産を胸に、自分で選んだ新たな道を力強く踏みしめ、歩んでいくことを誓います。(略) 素敵な三年間をありがとうございました！

送 辞(抜粋)

在校生代表

青木 はう



(略)、一七三名の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

(略) 中学校に入学したばかりの頃、ぼくは、小学校とは違った新しい環境への不安や緊張でいっぱいでした。もちろん、中学校を楽しみにしている自分もいましたが、それ以上に怖いという気持ちが強かったのを今でも覚えています。しかし、先輩方は部活動や生徒会活動などを通して、中学校の楽しさをぼくたちに教えてくださいました。また、先輩方が中学校で楽しそうに活動している様子を見て、ぼくは、中学校への怖さが無くなっていきました。たった一つ上の先輩方の背中がどんなに大きく見えたことでしょうか。

(略) 自分自身も未知の状況の中で受験に向けて勉強をし、コロナ感染と闘いながら、知恵を絞り、工夫を重ねて、全校生徒のために青春の一ページを作ってくださった先輩方には尊敬の気持ちしかありません。こうして、右も左もわからなかったぼくたちを引っ張って、新しいことを始めてくださったのは、どんな時でも、三年生の先輩方でした。そんな頼りになる先輩方と志賀中学校で過ごすのも今日で最後となりました。

この二年の間に、部活動や学校行事を通して教えてくださった、諦めない心や最後までやり抜く姿勢などの、ぼくたちが見習わなくてはならない先輩方の姿は必ず受け継ぎます。また、これからは、ぼくたち二年生が志賀中学校の代表になり、在校生の手本となります。そういったことを自覚して精一杯努力していきたいと思います。

(略) 皆さんには、その夢や目標を、それぞれの「次のステージ」において実現していただきたいと思います。頭の中で思い描いている「想像」を自分たちで作りに上げていく「創造」に変えていただきたいと思います。ぼくは、そう強く思っています。名残惜しいですが、いよいよお別れの時となりました。最後に志賀中学校を巣立っていかれる皆さんに、心からのエールを送ります。

今まで本当にありがとうございました。今後のご健康とご活躍をお祈りし、送辞といたします。

